



👁️👁️ みどころ

明智光秀も謎多き人物だが、ウィリアム・シェイクスピアもそうらしい。また、織田信長は49歳で切腹したが、劇作家として大成功しているシェイクスピアは49歳で突然断筆。それは一体なぜ？

故郷には広大な土地があり、家族が住んでいたが、20数年ぶりの帰郷の成否は？また、11歳で死亡した愛息を追悼するための「シェイクスピアの庭」造りの成否は？

「俺は何でも知っている」そんな自信が過信であったことは、次女からの秘密の告白で明らかだが、その“あっと驚く秘密”とは？さあ、シェイクスピアの晩年3年間を本作でしっかりフォーカスしてみよう。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■信長は49歳で切腹！彼は49歳で断筆！それはなぜ？■

敦盛の「人間50年」を好んでいた日本の偉大な武将・織田信長は、不幸にして1582年6月2日、明智光秀の謀反によって49歳で切腹したが、英国の偉大な劇作家ウィリアム・シェイクスピア（ケネス・ブラナー）は49歳で断筆した。それはなぜ？『ロミオとジュリエット』や『ヴェニスの商人』、そして『ハムレット』『リア王』『マクベス』等々、数多くの傑作を書き続けてきたシェイクスピアが、一体なぜ？

彼は劇場「グローブ座」を建設し、その“株主”になっていたから、1599年に『ジュリアス・シーザー』で同劇場が開場してから、ずっと同劇場が数々の彼の新作を上演してきたのは当然。ところで去る3月28日、劇団「青年団」を主催する劇作家・平田オリザが本拠地となる劇場を、東京都目黒区の「こまばアゴラ劇場」から兵庫県豊岡市の「江原河畔劇場」に移転し、新型コロナ騒動のさなか、新劇場のお披露目として地元住民向けのプレオープン公演を行ったことが報じられた。それに比べると、シェイクスピアのグロ

ープ座は規模がはるかに大きかったから、株主（＝オーナー？）たる彼の儲けは大きかったはずだ。これらのデータは本作のパンフレットにある「シェイクスピア関連年表」に基づくものだが、1603年にシェイクスピア劇団が「国王一座」になったことを考えても、それは明らかだ。しかるに、彼はなぜ突然49歳にして断筆し、それまで全く疎遠だった妻子のいる故郷、スラットフォード・アボン・エイヴォンに戻っていったの？

本作冒頭のシークエンスによると、それは、1613年6月29日、『ヘンリー8世』の上演中にグローブ座が炎上焼失したためだが、そうだとすると、49歳にして断筆、帰郷という選択はなぜ？

■□■明智光秀は謎多き人物だが、シェイクスピアも・・・■□■

女優・沢尻エリカの薬物騒動のため、女優を川口春奈に変更して撮り直しをせざるを得なくなったため、スタートが少し遅れた今年のNHK大河ドラマ『麒麟がくる』は好評で、その視聴率は昨年の『韋駄天』とは大違い。本作を鑑賞した日の夜、NHKでは「プロフェッショナル 仕事の流儀」「本木雅弘スペシャル」は斎藤道三役のモックンこと本木雅弘の密着取材をしていたが、そこで俳優・本木雅弘がいかにか「悪人”斎藤道三の役づくりをするか」に悩む姿は実に面白かった。

織田信長を主人公にした映画は多いし、斎藤道三を主人公にしたNHK大河ドラマでは既に司馬遼太郎原作の『国盗り物語』（73年）がある。ところが、明智光秀を主人公にした映画やドラマは少ない。それは、彼に関しては出生を含めて資料が少なく、謎多き人物とされているからだ。それと同じように、シェイクスピアについても、彼の多くの作品や功績が広く知れわたっているにもかかわらず、彼の生涯についてはベールに包まれているらしい。とりわけ、49歳で断筆してスラットフォード・アボン・エイヴォンに戻り、1616年4月23日に52歳で死亡した、晩年の3年間はそうらしい。

そこに目をつけて（？）本作を監督し、かつシェイクスピア役で主演したのが、20代からシェイクスピア劇の主演を演じ続けているケネス・ブラナー。パンフレットにある彼のインタビューによると、彼は「シェイクスピアを神格化するのではなく、あくまでも生身の人間として描きたいと思った」そうだが、さてその成否は？

■□■秋山好古の帰郷は大成功！しかし、彼の帰郷は？■□■

私の故郷は愛媛県松山市だが、そこは司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』で有名な秋山兄弟の故郷として有名。弟の真之は日本海海戦のT字作戦の立案者として有名だが、その晩年は幸せではなかったらしい。それに対して、兄の好古は予備役編入後は故郷に戻り、死去の半年前まで私立北予中学校（現在の愛媛県立松山北高等学校）の校長を務め、幸せな余生を送った。

それと同じように、シェイクスピアが断筆し故郷スラットフォード・アボン・エイヴォンに戻る決心をしたのが、グローブ座の焼失という手痛い事故だったとしても、故郷には妻のアン（ジュディ・デンチ）と、まだ未婚の次女ジュディス（キャスリン・ワイルダー）

が住んでいたから、彼にとっても20年にわたるロンドンでの生活に別れを告げ、広くて空気のいい田舎で悠々自適の生活ができれば悪くないのでは？私はそう思いながらスクリーンを見ていたが、スラットフォード・アポン・エイヴォンに足を踏み入れると、いきなり11歳で亡くなった長男ハムネット（サム・エリス）の亡霊と出会ったからアレレ。さらに、夫の突然の帰郷を喜んでくれると思っていた8歳年上の妻アンからは、「家族にとってあなたは客人。客人には最上のベッドを」と、寝室の前で夫を突き放すように皮肉タップリに言われたからビックリ。さらに、次女ジュディスも、町医者に嫁いだ長女のズザンナ（リディア・ウィルソン）も、父親がそのままスラットフォード・アポン・エイヴォンに留まると聞いて明らかに困惑していたから、アレレ……。

この土地もこの家も全部俺が購入し、家族が住んでいるのに、なぜそこに戻ってきた俺が歓迎されないの？シェイクスピアがそう考え、そう不審に思ったのは当然だが……。

■□■プロテスタントによるカトリックへの弾圧は？■□■

シェイクスピア作品の「裁判モノ」の代表は『ヴェニスの商人』だが、本作でも、帰郷してきたシェイクスピアが、長女ズザンナの「不倫」を騒ぎたてた、近隣に住む男ジョン・レーン（ショーン・フォーリー）を名誉毀損で訴えたことによって裁判になるので、それに注目。ロンドンで大成功した劇作家にして、127エーカーという地元で2番目に広い土地を購入して住んでいるシェイクスピアは、当然地元の名士ではなかったの？日本ならさしずめライオンズクラブやロータリークラブへの入会を勧められ、近い将来にその会長に嘱望されているはずだが……。

そんな疑問を持ちながらスクリーンを見てみると、帰郷したシェイクスピアは自分のことをまわりの人々に「泥棒の子」と称していたから、アレレ。シェイクスピアの父親は故郷スラットフォード・アポン・エイヴォンの手袋職人だったが、後に町長まで務めたそうなのに、なぜ彼は自分のことをそんな風に言っているの？シェイクスピアの生涯は謎に包まれているとはいえ、さすがシェイクスピア劇に精通しているケネス・ブラナーは、ウィリアム・シェイクスピアの父親ジョン・シェイクスピアがカトリック教徒だったため、当時の英国の国教とされていたプロテスタントから迫害されていたこと、そして、シェイクスピア自身もカトリック教徒だったため故郷に戻った後も教会との関係に大きな確執があったことを要領よく描いていく。1558年に25歳で即位したエリザベス女王はプロテスタントを国教とし、イングランド国教会を国家の支柱として位置づけた。その結果、1585年にはシェイクスピアの旧友ロバート・ダブデイルがカトリック信徒として拷問を受けて死亡したし、1586年には、父親のジョン・シェイクスピアは参事会員を罷免されてしまった。そんなこともあって、故郷に帰ってきたシェイクスピアは、地元の教会にはあまり行かなくなっていたようだが……。

故郷スラットフォード・アポン・エイヴォンの町は、今やプロテスタント清教徒に支配されていた。そのうえ、長女の夫ジョン・ホール（ハドリー・フレイザー）は敬虔な清教

徒だったから、シェイクスピアが劇場を経営し大儲けをしていることは、彼の価値観によればそれ自体がよくないことだったらしい。そんなこともあって、彼はスザンナに対して盛んに義理の父（＝シェイクスピア）の遺産相続のあり方を質問していたが、その狙いは・・・？

本作のパンフレットには、河合祥一郎氏（日本シェイクスピア協会会長、東京大学芸術創造連携研究機構長、東京大学教授）の Column「映画『シェイクスピアの庭』鑑賞のために予備知識」がある。そこでは「みんなもう知ってるよね」と言った調子で本作に盛り込まれているいろいろな事実についてわかりやすく解説されているので、これは大いに参考になる。また、前述の「シェイクスピア関連年表」の他、きさらぎ尚氏（映画評論家）の Column「撮るべき監督のもとに演じるべき俳優が集まった格調高く豊かな家族の物語」の Column もあるので、これも本作を正確に鑑賞するための予備知識として読み込みたい。

■□■妻の不満は？ジュディスの秘密は？その前に彼は啞然！ ■□■

私はシェイクスピアの有名な劇はほとんどすべて知っているが、彼の詩やソネットについては全然知らなかった。また、1593年6月に「サウサンプトン伯爵に捧げる」とした献辞付きで署名入りの詩編「ヴィーナスとアドーニス」を出版し、更に「ソネット集」の執筆を始めたことも、全く知らなかった。そのため、本作中盤シェイクスピアをこよなく尊敬しているサウサンプトン伯爵（イアン・マッケラ）がストラットフォードを訪れ、旧交を暖めている姿が何を意味するのかも、私にはさっぱりわからなかった。そこまで文学的な教養のある人には不要だが、私と同じようにその意味が分からない観客は、前述したきさらぎ尚のコラムの助けが必要だ。夫の旧友サウサンプトン伯爵がわざわざ夫の故郷まで訪れてくれたのだから、妻のアンは彼を歓迎して当然だが、そこでアンが夫に対して示した不満とは？そして、その不満の理由とは？

他方、エリザベス女王統治下の16世紀のイギリスで、男尊女卑の風潮が強かったのは当然。日本人は江戸時代でも読み書きができる国民として世界的に稀有な存在だったが、16世紀のイギリス人の多くは読み書きができなかったのは当然。しかし、シェイクスピアの長女スザンナも11歳で死亡したハムネットも読み書きができたが、妻のアンも次女のジュディスもそれができなかったらしい。そんなこともあって、ジュディスとハムネットは双子の姉弟だったが、シェイクスピアははじめて生まれた息子のハムネットを溺愛していたらしい。その象徴が、幼いハムネットが書き、シェイクスピアがどれも「機知に富んでいる」とほめたたえ、ずっと大切に保管していた詩集だ。しかも、今回帰郷してきたシェイクスピアが新たな目標として公言したのが、ハムネットを追悼するための庭を造ることだったから、シェイクスピアのハムネットへの溺愛は今も全く変わらないらしい。ところが、父親がハムネットを溺愛していることにずっと憤っていたジュディスがある日、生き残ったのが自分であることの罪悪感をシェイクスピアに対してぶちまけたから彼はビックリ。さらに、サウサンプトン伯爵来訪の後、ハムネットの死についてジュ

デイスぶちまけた秘密とは・・・？

■□■さらに重大なジュディアスの秘密とは？庭造りの成否は？□■

20数年間も家族を故郷においたまま、自分一人だけロンドンで活躍していれば、家族のことが疎くなっても仕方ない。しかし、天才シェイクスピアはそれでも「俺は何でも知っている」という変な自信があったらしい。そのため、ジュディアスから驚愕の秘密をぶちまけられた時には啞然としたが、ジュディアスには更なる重大な秘密があったからそれに注目！

現在世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスによって、3月29日に志村けんさんが死亡したが、パンデミック（世界的な大流行）は人類が過去何度も経験したものだ。シェイクスピアはハムネットが11歳の時に死亡したのは疫病のためと聞かされ、それを信じていたが、ある日、あるきっかけでその死因を調べてみるとアレレ・・・？さらに、それをジュディアスに追及してみると、実は17年前の夏、ハムネットは夜中にベッドを抜け出し、いつも遊んでいる池に出かけたらしい。そして、そこでジュディアスが見た風景とは？

そのネタバレは厳禁だから「ジュディアスの秘密その1」と「ジュディアスの秘密その2」については、あなた自身の目でしっかり確認してもらいたい。そこでシェイクスピアが悟ったのは、「俺が知らないことも山ほどあったんだ」という当たり前なことだ。近隣に住むジョン・レーンとの裁判沙汰や、旧友のサウサンプトン伯爵との再会を経た後、それまで全く知らなかった妻アンの不満を知り、さらに次女ジュディアスの秘密その1、その2を聞き、シェイクスピアのストラットフォードでの晩年の3年間ほどどのように変わっていったの？また、織田信長は49歳で死亡したが、シェイクスピアは49歳での帰郷後の3年間を故郷ストラットフォードで過ごし、「シェイクスピアの庭造り」をする中でどのように成長したの？さらに、シェイクスピアの人間としての変化は、ハムネット追悼のために造ろうと思立った庭造りにどのような変化をもたらしたの？

彼が今造っている庭は決して広いものではないが、その成否は？本作を鑑賞した後は、そんなこんなをじっくり考えたい。

2020（令和2）年4月5日記